



国府台女子学院 小学部だよ

市川市菅野3-24-1

Tel 047-322-5644

Fax 047-322-5655

<https://www.konodai-gs.ac.jp/>

ようこそ国府台女学院へ

～1年生を迎える会～

5月12日、児童会主催の1年生を迎える会が行われました。

2年生から5年生が並んでいる中を6年生と手をつないだ1年生が入場。ひとりずつ名前が呼ばれて紹介された後、在校生が歓迎の歌として「世界中の子どもたちが」を手話付きで歌いました。上級生の歓迎のこぼや児童会が考案した学校にまつわる〇×クイズで盛り上がった後、1年生から歌「ありがとうの花」のお返しがありました。1年生の始めの緊張は次第にほぐれ、楽しい時間を過ごすことができました。

子供たちには、日常生活の中で楽しいことや好きなことなどをたくさん見つけていってほしいと思います。

そして、上級生は1年生のよいお手本になり、1年生は上級

自律心を育むために

新学年になり、友達との関わりが広がってくると、みんなもやっているから大丈夫というような集団にいる心の緩みや、誘われて断ったら嫌われてしまうかもしれないというような誤った仲間意識から、学校のきまりから外れる行動をとってしまうことがあると思います。

そのような行動がわかった場合は、状況を確認して、反省

5月行事予定

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1日 健康診断 | 14日 学校見学会（受験希望者対象） |
| 2日 2, 3, 5年生校外学習 | |
| 3日 祝 憲法記念日 | 17日 休業日 |
| 4日 祝 みどりの日 | 学校説明会（受験希望者対象） |
| 5日 祝 こどもの日 | 19日 宗祖降誕会 |
| 6日 振替休日 | 20日 1年生交通安全教室 |
| 10日 創立100年（99周年）記念式 | クラブ |
| 4～6年生参加 | 21日 運動会特別日課開始 |
| 1～3年生自宅学習 | 23日 尿検査2次 |
| | 30日 運動会予行進備 |

し、特に高学年の児童には、下級生のお手本となるような行動がとれるよう指導しています。

子供たちには行動の善悪の判断ができるように、自分を律することができるようになってほしいと思っています。

ご家庭と協力しながら子供たちを見守っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



修学旅行 おまけの話

6年生は、4月22日から25日の3泊4日の日程で、沖縄へ修学旅行に行ってきました。

平和の尊さを実感するとともに、沖縄の自然や文化に触れ、楽しく充実した4日間を過ごしてきました。

そして、沖縄県平和記念公園では恒例になっている献歌として今年は『花』を歌いました。

さて、連休中のことです。渋谷で学校説明会があり、本校も参加していたところ、ある学校のスタッフが本校のブースにわざわざ来られました。沖縄で本校の献歌を聞いて、あまりに美しい歌声に感動し、学校名を覚えてくれたとのことでした。

平和への願いを歌に込めた思いが伝わったように感じられて、うれしい気持ちになりました。

お知らせ

「障害者差別解消法」の改正施行により私立学校に於いても合理的配慮の提供が義務となっています。

小学部の特別支援教育コーディネーターは門脇教諭が担当しています。

新たに「学校における合理的配慮の提供（意思の表明）」の申し出をされる場合は、担任または特別支援

今月の目標

「きまりを守って、落ち着いた生活をしよう。」

『王舎城の悲劇』

浄土真宗の開祖 親鸞聖人が大切にしていた經典に『観無量寿経(以下、『観経』と称する)』という經典があり、その中に「王舎城の悲劇」という有名なエピソードが含まれています。この物語に登場するマガダ国の頻婆娑羅(びんばしゃら)王は、占い師により「汝は息子に殺され王位を奪われるだろう」という予言が下されます。その予言が呪縛となり、王は息子の阿闍世(あじゃせ)を愛しいと思いながら、「私はいつかこの子に殺されてしまうのか…」と恐怖に囚われ、息子を遠ざけてしまうのでした。時が過ぎ、父から愛されていないと感じた阿闍世は、冷淡な父王を憎み、予言通りに父を殺そうとするのでした。王子は父王を牢獄に幽閉し、食物を与えず餓死させようとしたが、母親の韋提希(いだいけ)夫人は食べ物を密かに牢獄に運び、夫に与えていました。そのことを知った阿闍世は、「母上、何故あなたは、私にひどい仕打ちをした父王を助けようとするのか!」と激昂し、刀を実母に向け、切り殺そうとするのです。しかし、腹心の月光大臣が立ちはだかり「母を殺そうとするなど王族として恥ずかしい行為です!」と刀の鏢に指をかけ王子を止め、異母兄弟の耆婆大臣も「王子、おやめください!」と暴挙を阻止したのでした。阿闍世は二人に向かって「お前達も私の味方になってくれないのか」と嘆き、剣を納めて一人玉座に座り込むのでした。

『観経』で語られる親子の物語は、親子や家族であっても、お互いを思いやり理解することは難しく、「愛憎」に囚われ大切なものを失ってしまうという現実世界の悲劇をテーマとして、現代に生きる我々に問いかけてきます。『私は我が子に殺されてしまうのか』という予言に囚われた父王(父親)。『なぜ、私はあのような子を産んでしまったのか』と自身の境遇を嘆く妃(母親)。『私は誰からも愛されないのか』と愛情に飢える王子(息子)。この悲劇は、現代社会における児童虐待や家庭内不和・暴力といった問題と深く共鳴し、私たちに問いかけてきます。

さて、この物語の終盤では、愛する王子に親殺しの罪を犯させないため、父王は自ら命を絶ちます。もし両親がもっと早く、予言に囚われることなく、ありのままの心で息子を受け入れ、愛せていたなら、彼らは愛憎に苦しむことはなかったでしょう。この『観経』を読んでみると、ありのままを受け入れる勇気や分け隔てのない愛情こそが、争いをなくし、人と人をつなぐ温かな光なのだ気づかせてくれます。經典は、もはや現代には通用しない過去の遺物、いわゆるオワコンなどではなく、先人たちが現代を生きる私たちに紡いでくれた、心を深く揺さぶるエモーションナルコンテンツなのだ私は思います。児童と保護者の皆様には、ぜ